

大学院看護学研究科 博士前期課程		授業 科目	看護工学 Nursing Technology			担当 教員	廣岡 正彦 (非常勤)
開講年次	1年次後期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目 基盤看護学	授業形態	講義
選択必修	選択	時間数	30時間			使用教室	
授業の目的及びねらい		<p>人間工学の観点から、看護作業の適正化を科学的に検証する過程について教授する。あわせて、臨床現場で用いられるおもな医療機器を取り上げると共に、従来行なわれている看護技術について看護工学的側面からメスを入れて考える。</p>					
授業のキーワード		<p>科学的検証、医療機器、技術と根拠</p>					
講義回数	授業内容及び計画						
第1回 ～ 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	<p>I：看護学と物理・化学 (物理と化学の簡単な復習)</p> <p>II：血圧に関する知識のすべて</p> <p>III：低圧持続吸引装置の原理 (含：ディスポーザブル)</p> <p>IV：高気圧酸素療法と psi の解釈</p> <p>V：ネブライザー (含：ジェットネブライザー、ベンチュリーマスク)</p> <p>VI：内視鏡とその原理</p> <p>VII：超音波診断におけるドップラー効果と血流系への応用理論</p> <p>VIII：経管栄養と粘性</p> <p>IX：血液浄化と透析</p> <p>X：浸透圧の計算</p> <p>XI：熱の移動、サーモグラフィーの原理</p> <p>XII：放射性物質、レーザー光の危機管理</p> <p>XIII：試験</p> <p>他に第1回目の講義のときに要望の出された項目を加える。</p>						
参考書	<p>New ベッドサイドを科学する (平田雅子著、学習研究社)</p>						
参考文献	<p>随時、参考資料を配布</p>						
成績評価の方法と基準	<p>受講態度、試験の成績によって評価する</p>						
教員から学生へのメッセージ	<p>上記の知識は、基礎看護学分野、看護組織学分野、実践看護学分野にかかわらず、必要不可欠であると考えられる。知識があったために、大きい事故を防げたという可能性も生じ得るだろう。基本的科目として受講することをすすめる。</p>						